

メルマガジン

8月1日号

1 梅雨明けから、猛暑が続いています。猛暑日などという猛々しい言葉が使われています。小中高はやっと待望の夏休みになりましたが、昨今は、補習や合宿などがあり、生徒にとっても教師にとっても、かつて吉田拓郎が歌ったような「夏休み」ではなくなっています。大学も、前期試験が7月一杯続き、先生方は採点で8月の半ばまで多忙をきわめているのではないのでしょうか。

さて、ネットワークは、夏が一番忙しい時期です。先生のための「夏休み経済教室」がはじまります。今年はどんな成果がでるのでしょうか。

2 活動報告

(1) 東京部会が開かれました

7月22日(木)、東京部会が開かれました。今回は、新しく参加された先生方が3人、アメリカから帰国された宮尾先生も参加され、総勢16名で、活発な議論がなされました。主な議論は、夏のセミナー(「経済教室」)の準備でしたが、そのなかでも、「余剰」を巡る理解の方法や取り扱い方など、これまでも話題になっているテーマが話し合われました。「余剰」に関しては、夏のセミナーでも取り上げられる予定ですので、さらに深めた議論や指導法方法などが検討されてゆくことが期待されます。

次回の東京部会は、9月14日(火)のコマナー教授の講演会後に予定され、夏のセミナーの総括が話し合われる予定です。

なお、大阪、京都部会はこの間は開催されませんでした。次回は、京都が9月24日(金)、大阪が9月25日(土)の開催予定です。

(2) セミナー準備すすむ

3回目になる「夏休み経済教室」の準備が進んでいます。今年は、全国4箇所ですべて5回のセミナーを企画しています。東京、大阪では100名弱、名古屋で40名、札幌で30名程度の参加者が予定されています。このメルマガが皆様のところに届くときにはスターとしていますが、お知り合いの方や興味をお持ちの方がいらっしゃったら、お誘いください。今年は、現職教員だけでなく、教師志望の学生、大学院生にもアナウンスをしましたので、新たな雰囲気ですすすめられるかもしれません。

また、新企画としては、高校の先生対象に「入試で出る教科書にはない用語」の解説が入りました。これは、昨年の「大学入試問題検討プロジェクト」のなかから出てきた企画です。現実に入試問題で出題されている問題のなかに、教科書では出てこない概念や理論があったり、教科書には書かれているけれど、言葉だけだったり理解しづらいものを取りあげて、専門家が解説するというものです。用語のピックアップは、奈良学園の山本先生があたりました。それを整理した問題集とネットワークの先生方が分担執筆した用語解説

集の二つが、セミナー会場で配布される予定です。

セミナーで使用する教科書は、昨年までの清水書院、帝国書院に加えて、今年は東京書籍の協力を得て、三種類ないし二種類の教科書が比較されながら講義が進められることになりました。これも新しい試みです。

セミナーの様子など、次回報告をいたします。

(3) コマナー教授講演会 9月実施が決定されました。

アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 経済学部教授のウィリアム・コマナー教授の講演会「経済学とは何かー中高生にどう教えるか」が、来る9月14日(火)に開催されます。19:00~20:00, 日本大学経済学部7号館の予定です。

コマナー教授は、米国とカナダで長年経済学を教えた経験にもとづいて、経済教育の方法に造詣の深い方です。今回は、特に、中高生にどう教えるかという点から、経済学の捉え方、経済教育の方法などに関して興味深いお話が伺えるはずです。

通訳と進行は、コマナー教授の友人である、宮尾尊弘(南カリフォルニア大学客員教授)先生があたります。詳細は、ネットワークHPをご覧ください。

3 他団体との連携～ネットワークすすむ

前号で紹介したように、他団体との連携が進んでいます。

8月5日(木)6日(金)には、全国社会科公民科教育研究会の全国大会で、5日には大竹文雄先生が講演、6日には「入試問題シンポジウム」が開催され、篠原代表、新井、上原、吉田の各先生が参加します。

翌、8月7日(土)には、弘前大学経済教育センターとの共催で、イリノイ州立大学のトマス・ルーシー教授の講演会と経済倫理に関する調査発表が、日本大学経済学部で開催され、篠原代表がコメンテータで出席されます。この講演会と研究発表は、弘前大学の猪瀬武則先生が主催する科学研究費にもとづく研究プロジェクトの一環の学術セミナーとしてなされるものです。金融経済教育における倫理問題など興味深い内容が報告される予定です。関心のある先生方の参加を募ります。詳細は、ネットワークHPをご覧ください。

8月28日(土)には、授業のネタ研究会 in 関西が開催されます。ネタ研は、大阪部会の先生方が多く参加している研究会です。あすからでも役立つ授業のネタ、生徒を納得させるネタなど情報満載の研究会です。これも関心のある先生の参加を募っています。同じく詳細は、ネットワークHPをご覧ください。

4 授業のヒント 税金

参議院選挙が終了し、民主党は敗北。ねじれ国会がはじまります。民主党の敗北の原因は消費税10%を突然スローガンに言い出したことだと指摘されています。この敗北で消費税論議が封印されてしまうのか否か、これからの重大問題です。

でも、これらのマクロ的問題の前に、生徒はそもそも税金のしくみについてあまり知り

ません。実は、教員である私たちもあまり知らない先生が多いのではと思います。確定申告をする先生はそれほど多くないでしょうから、大多数は源泉徴収で済んでしまいます。消費税は買い物ごとにかかりますが、本などを除く大多数が内税表示になっていますから、これもなかなか自覚しづらいものがあります。

そんななか、授業では生徒に確定申告をさせてみるとよいと思います。東京税理士会が作成した高校生向けの『知っておきたい税のはなし』というパンフレットには、確定申告のシミュレーションが掲載されています。このパンフレットは、高等学校の指導要領に準拠して作成されているので、生徒に副読本として読ませても役立つかもしれません。また、ダウンロードも簡単にできますから、利用されるとよいと思います。アドレスは以下の通りです。

<http://www.tokyozeirishikai.or.jp/generalperson/soudan.html>

この種のパンフレットは、各団体がたくさん作っていますが、学校に配布されると、見られることなくゴミ箱に直行というものもあります。このパンフレットはそんななかで、なかなか使えるものと言えるでしょう。高校生向けですが、中学校の先生方にも参考になると思います。

編集後記（みみずのたはこと）

復刊3号です。3号雑誌にならないように、これからも心したいと思います。

前号で紹介したN. Nとは誰？との問い合わせを受けました。永山則夫というのがその人物です。私たちの世代では『無知の涙』（河出文庫）という本で知っている人も多いかと思います。永山については、先日もNHKでその軌跡を追ったドキュメンタリーが放映されていました。97年に刑が執行されてから10年以上たちますが、その影響？はまだ残っているようです。

このメルマガが発行されている時は、きっと名古屋か札幌にいるでしょう。夏のセミナーに参加するためです。せっかく行くのだからすこしは見学などとも思いつつ、タイトなスケジュールで、今年も会場と宿舎、移動の連続になりそうです。来年も実施するなら名所、名物を堪能したいと思うのですが、見果てぬ夢になりそうです。

酷暑の日々が続きます。御身大切にしてください。体が資本ですから。（新井）